

第3回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会

日 時：平成21年 5月20日（水）

10：00～12：00

場 所：戸沢村役場（301会議室）

議 事

- (1) 平成20年度「土湯の森」づくり事業報告・・・・・・・・・・資料1
山取苗の植え付けと自然観察
刈り払いと「幻想の森」散策
植生モニタリング調査
ブナ等稚樹の山取と火おこし体験
冬季現地確認
- (2) 平成21年度「土湯の森」づくり事業計画・・・・・・・・・・資料2
- (3) みどり環境交付金事業について・・・・・・・・・・資料3
- (4) 参加募集について・・・・・・・・・・資料4
- (5) 広報活動（ホームページ等）について・・・・・・・・・・資料5
- (6) 自然再生実施協議会設置要綱の一部改正について・・・・・・・・ 資料6
- (7) その他

平成 20 年度「土湯の森」づくり事業報告

1 山取苗の植え付けと自然観察

(1) 目的

スキー場跡地の最も植生回復が遅れている箇所において、植え付けによる森林の再生を図るとともに野鳥観察やネイチャーゲームなどを通じて楽しみながら自然を学んでもらうことを目的として実施した。

(2) 実施日時 平成 20 年 6 月 14 日(土) 9:30 ~ 12:40 (14:40)

(3) 参加者の募集方法

自然再生実施協議会委員あて参加募集案内を送付(5/13)

戸沢村内小学校 4 校(対象 4 ~ 6 年生)へ募集案内配布(5/19)

戸沢村ホームページで募集(5/20)

(4) 参加者

参加者		人数	内 訳
戸沢村民		43名	委員(2)、山ノ内地区(4)、古口小学校6年(1)、5年(13)、先生(1)、その他(児童親含む22)
新庄市民		4名	委員(1)、神室山系の自然を守る会(3)
舟形町民		2名	
事務局	戸沢村役場	1名	前田(商工観光交流主査)
	最上支署	1名	管理官
	ふれセン	4名	所長、庄司(友)、山口、庄司(卓)
計		55名	

(5) 事業内容

平成 20 年度に植え付けする区域は、実施計画の 0.2 ha 程度とし、事前準備として、バックホーによる植穴の耕耘、客土を実施した(図 1 及び写真 1 ~ 3)。

参加者は自家用車と戸沢村バス(希望者)により現地へ集合した。

事務局から取組の目的や作業方法などを説明した後、協議会委員が指導役となり 9 時 30 分 ~ 11 時頃まで植え付けした。

作業は、乾燥防止効果も期待している防草シートを全員で敷設した後に昨年山取したブナ等のポット苗 289 本を植え付けした。

耕耘した場所以外では、防草シートを固定するため使用した生分解性プラピンが固い地面に入らず苦労している場面が見受けられた(写真 4)。

植え付けは、事前準備した客土に行ったため、比較的スムーズに終了した（写真5～6）。

植え付け終了後に実施した森林環境教育では、参加してくれた小学生を中心に「木っけん」や空飛ぶタネの模型づくりを楽しんだ（写真7）。

野鳥観察では、ホオジロやウグイスなど野鳥のさえずりを聞きながら、設置した望遠鏡を興味深く覗いている子供の姿も見られた。

最後に角川のお母さんたち手作り「森の恵みを使った角川弁当（春）」で昼食を楽しみ解散した。

事業終了後、5年生親子の学年行事として実施した「幻想の森」の散策では、協議会委員から周辺の森林に棲む動物や人々の生活についての話がされ、子供たちだけでなく親も興味深く聞いている姿が見られた（写真8）。

図1 植付区位置図

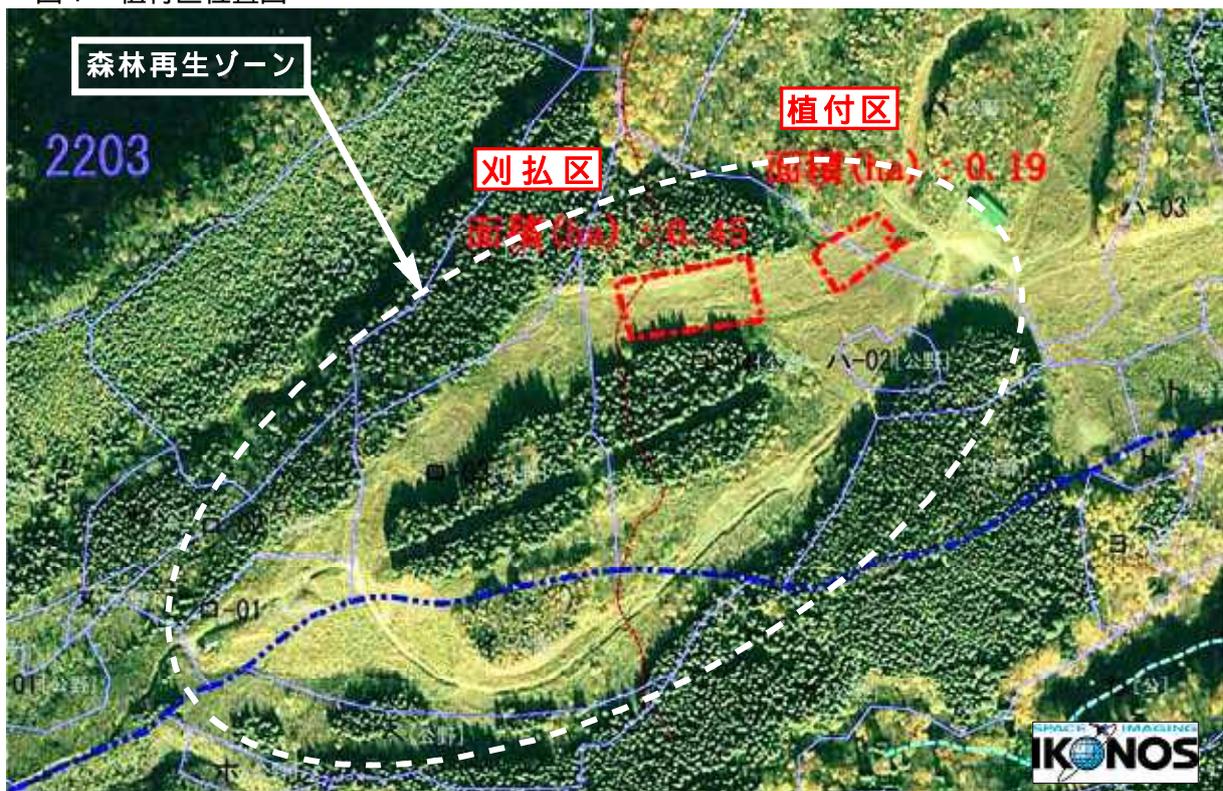


写真1 小型バックホーの植穴掘り



写真2 植穴（40×40×40cm）



写真3 客土（培養土+パーク堆肥）



写真4 防草シート敷設



写真5 植え付け



写真6 集合写真



写真7 木っけん



写真8 「幻想の森」

2 刈り払いと「幻想の森」散策

(1) 目的

昨年に引き続き、スキー場跡地の森林再生ゾーンに生育している高木性樹木の稚幼樹のための保育や更新補助を目的として、刈り払いを実施した。また、「幻想の森」を散策しながら、林内に生育する樹木や下層植生を観察し、最上峡周辺の自然について学んだ。

なお、戸沢村民や協議会委員のほか、アジアやアフリカなど8カ国から農村指導者研修として戸沢村に訪れていたアジア学院の留学生が研修の一環として参加した。

(2) 実施日時 平成20年8月1日(金) 9:30~12:00

(3) 参加者の募集方法

2008年アジア学院戸沢村研修会における留学生の参加を検討(7/9)

自然再生実施協議会委員あて参加募集案内を送付(7/10)

戸沢村ホームページで募集(7/11)

(4) 参加者

参加者	人数	内 訳
アジア学院	17名	学院生(15うち海外留学生14) 職員(2)
戸沢村民	5名	山ノ内地区(4)、その他(1)
新庄市民	7名	委員(3)、神室山系の自然を守る会(3)、最上総合支庁(1)
事務局	戸沢村役場	1名 前田(商工観光交流主査)
	最上支署	2名 管理官、経理係長
	ふれセン	4名 所長、庄司(友)、山口、庄司(卓)
計	36名	機械刈5人 手刈31人

(5) 事業内容

事前踏査により、昨年刈り払いしたススキやタニウツギなどの回復状況や効果の検証等について検討した結果、平成20年度も同じ箇所を刈り払いすることとした。なお、現地の雑草木の高さは、今年の刈り払い前より低くなったものの、森林再生ゾーンの中でも比較的多く繁茂している状況にあった(図2及び写真9)。

刈り払いは、協議会委員が指導役となり、昨年と同じ森林再生ゾーン内の0.45haを実施した。また、刈り払い方法も高木性の稚幼樹(主要な樹木については、昨年テープで表示済み)を残して全刈りした。

参加者は自家用車に乗り合わせ、直接現地へ集合した。なお、アジア学院関係者は学院バスにより現地へ集合した。

事業実施前に取組の目的や刈り払いの作業方法などを説明し、9時30分

～ 11時頃まで機械刈4名、手刈（下刈鎌）31名により作業を実施した（写真10～13）。

特に留学生にとっては、初めて見る木が多かったことや下刈鎌での慣れない作業であったことから、一部で残すこととした樹木の折損が見られた。

刈り払い終了後に「幻想の森」散策の希望者は現地へ移動し、協議会委員の講師のもと整備された歩道内を散策しながら、神代スギをはじめとする樹木や他の植物の観察を行った（写真14～15）。

留学生は、日本特産の木でもあるスギや最上峡周辺に自生しているユキツバキなどの下層植生を興味深く観察していた。特に幻想の森に自生する天然スギは、幹が地上2m付近からタコの足のように分かれているものが多く、通常のスギと違った珍しい形状をしたものが多いことから、留学生の関心を集めていた。

留学生の中には、国で森林管理の仕事に携わっている方もいて、森林の取組について意見交換するなど、有意義であったとの意見をいただいた。

図2 刈払区位置図



写真9 刈り払い区域（赤線内）



写真10 刈り払い作業



写真11 T V取材中



写真12 スイカで水分補給



写真13 集合写真



写真14 「幻想の森」散策



写真15 神代スギ(天スギ)の前で

3 植生モニタリング調査

(1) 目的

昨年に引き続き実施した刈り払いの成果や今年度植え付けしたブナ等の稚樹の現況を把握し、実施計画の見直しに反映させていくことを目的としている。

(2) 実施日時 平成20年10月5日(土) 9:30~12:00

(3) 参加者の募集方法

山形大学の学生及び神室山系の自然を守る会からの調査協力により実施

(4) 参加者

参加者		人数	内 訳
山形大学		8名	委員(1)、学生(7)
新庄市民		2名	委員(1)、神室山系の自然を守る会(1)
事務局	戸沢村役場	1名	前田(商工観光交流主査)
	ふれセン	2名	所長、庄司(卓)
計		13名	

(5) 事業内容

調査前に学生へ自然再生に向けた取組の経緯(スキー場の廃止、緑の回廊、自然再生実施協議会の概要等)を説明した後、調査方法(表1)の周知を図り調査に入った(写真15~18)

調査は、発生稚樹を把握するため、昨年設定した4調査プロット(森林再生ゾーン〔刈払区(図3)、対照区(図3)〕と自然推移ゾーン(図3、))に加え、今年6月に植栽したブナ等の稚樹を対象とした。

調査後に「森の恵みを使った角川弁当(秋)」で秋の味わいを楽しんだ後、解散した。

表1 調査方法

箇所		内 容
森林再生	植付区 (全木)	<ul style="list-style-type: none"> 植栽木全てに テープを付し、樹種、本数、苗高を調査した。また、植栽木の状態や被害(ウサギの食害)などを併せて調査した。 実施体制は2~3人/組
	刈払区域 (1箇所)	<ul style="list-style-type: none"> 昨年設定した4調査プロット(1m×10m)を調査した。 調査方法は昨年と同じくプロット内の10個のコドラート(1m×1m)ごと、それぞれ高木性の樹木の樹種、本数、苗高を調査した。 苗高は11cm以上を基本とし、コドラート 3と 8については、それ以下も調査した。 実施体制は2~3人/組
	対照区 (1箇所)	
自然維持ゾーン	(2箇所)	



写真15 調査方法の確認



写真16 苗高調査

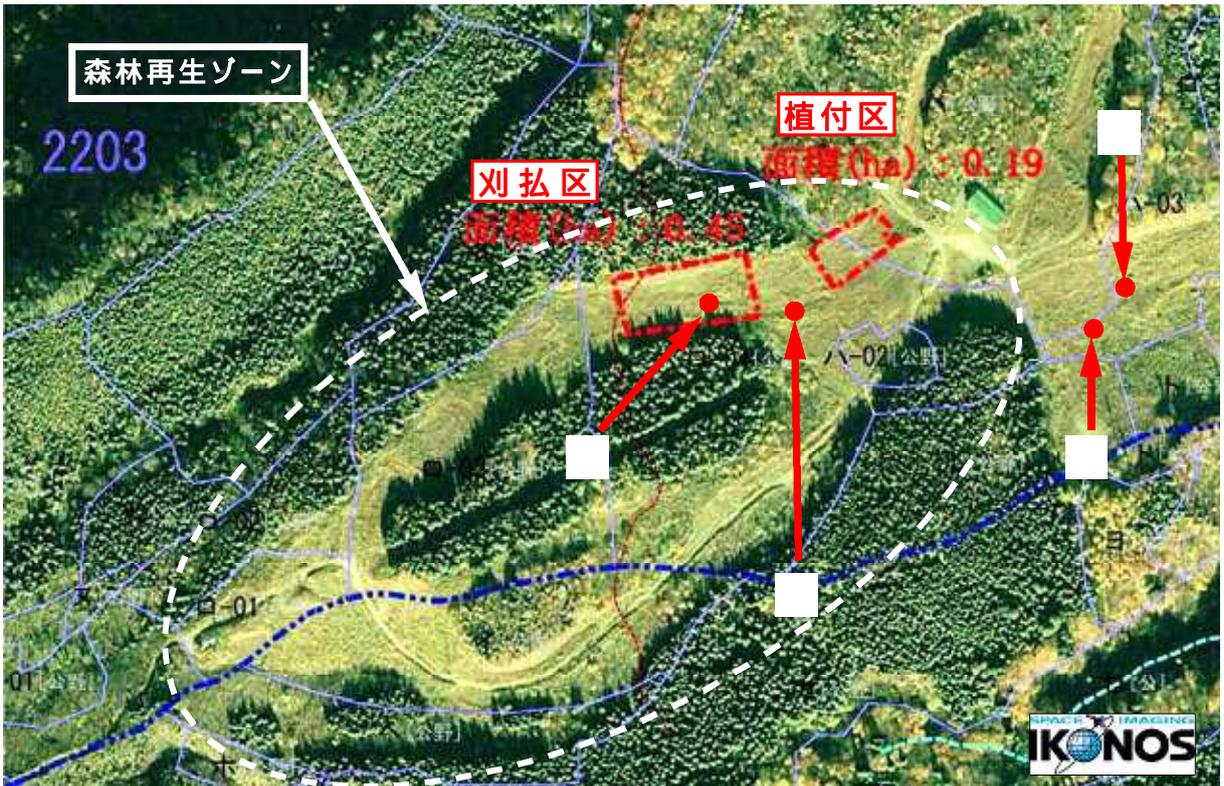


写真17 テープ・ウサギの食害・糞

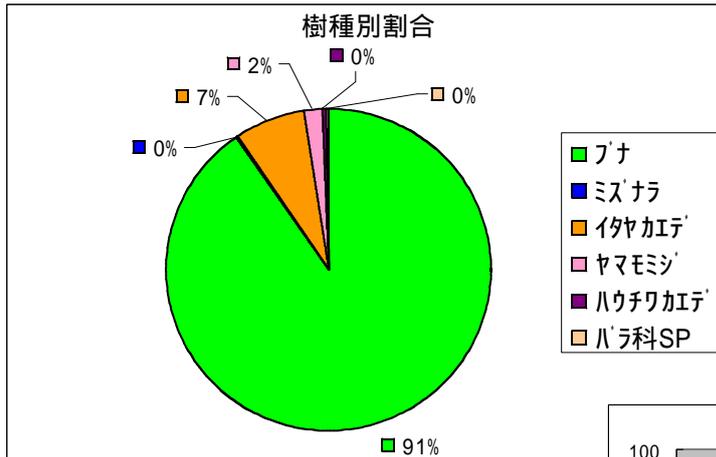


写真18 調査箇所の感想(意見)

図3 調査箇所位置図



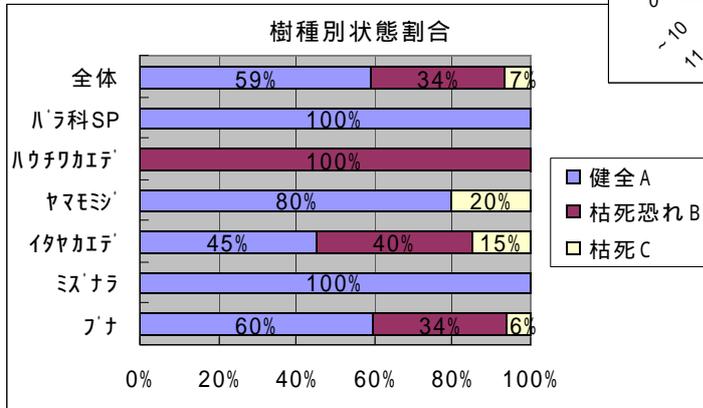
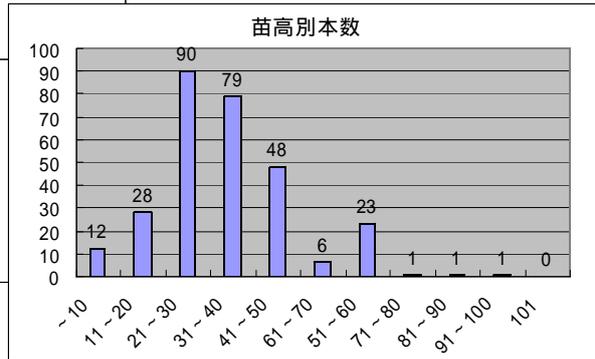
(6) 調査結果
植栽木調査



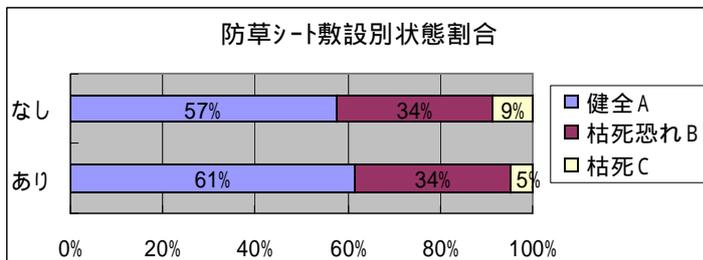
植栽木は昨年山取し、ポットに仮植したまま、スキー場跡地内で冬越ししたものを使用。

本数割合 ブナ 91%

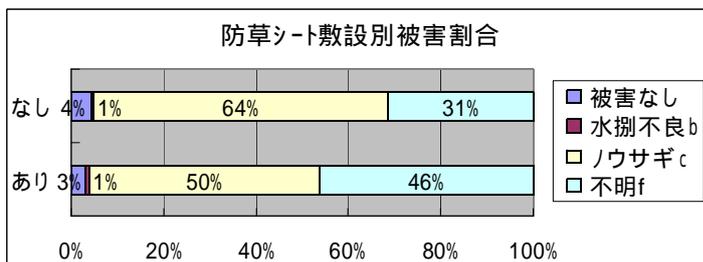
平均苗高 34cm



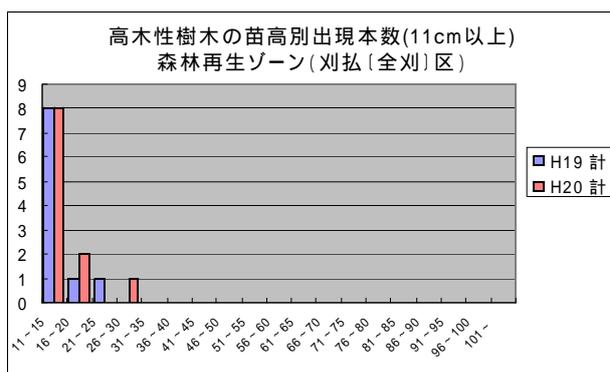
植栽木の状態
正常活着 59%
枯死 7%



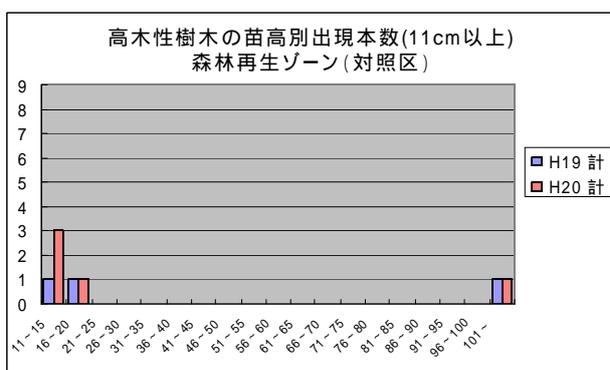
防草シートは、防草効果のほか、乾燥防止の効果을期待して敷設。



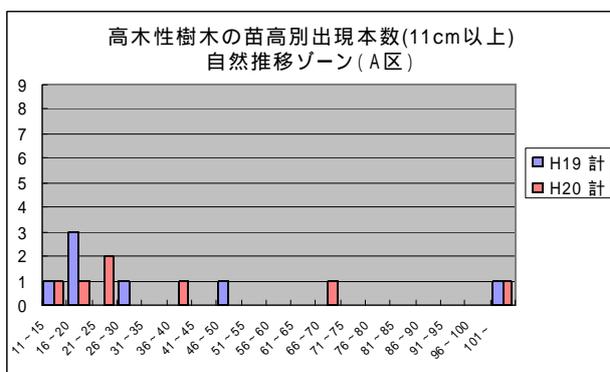
発生稚樹調査



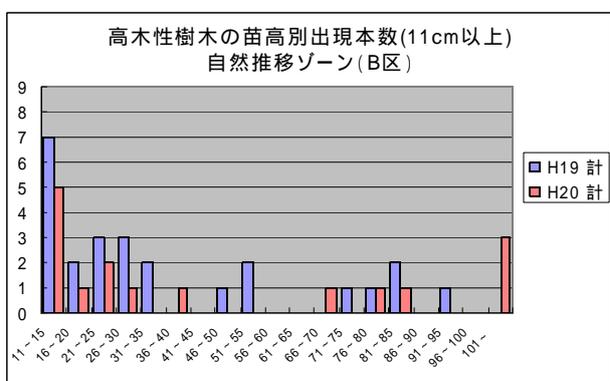
- ・平成19年度に引き続き刈り払いした区域内の調査である。
- ・プロット内の稚樹(11cm以上)はスギのみ。
- ・昨年あったイタヤカエデ1本が無くなった(原因:不明)。
- ・本数は昨年度の10本から11本へ1本増加した。また、少し苗高の生長が見られる。



- ・対照区として設定したプロット内の調査である。
- ・プロット内の稚樹(11cm以上)はスギとアカマツの2種のみ。
- ・稚樹の苗高は低く、本数は5本と少ないものの、昨年調査より3本増加した。



- ・自然推移ゾーン内に設定したプロット内の調査である。
- ・プロット内の稚樹(11cm以上)はスギとアカマツの2種のみで、昨年調査されたヤナギが無くなった。
- ・本数は7本と変わらないものの、昨年より少し苗高の生長が見られる。



- ・自然推移ゾーン内で林縁に近く、ブナの生育した箇所に設定したプロット内の調査である。
- ・プロット内の稚樹(11cm以上)はスギの外4種類の樹種が見られる。
- ・本数は16本と昨年調査時の25本より9本減少した(原因:不明)。
- ・苗高101cm以上に大きく生長したものが3本ある。

森林再生ゾーンでは、30cm未満のスギが大部分を占める。また、刈払区では本数が多くみられるが、昨年調査時と比較すると大きな違いが見られないことから、刈り払い以前に発生していたものと考えられる。

自然推移ゾーンでは、30cm以上に生長したのも比較的多く(5,000本/ha)見られることから、順調な更新が期待できる。

4 プナ等稚樹の山取と火おこし体験

(1) 目的

翌年度にスキー場跡地へ植栽するプナ等の稚樹の確保と古代の火おこし体験による人の生活と自然とのつながりなどを楽しみながら学ぶことを目的として実施した。

(2) 実施日時 平成20年10月25日(土) 9:30~13:00

(3) 参加者の募集方法について

戸沢村広報(10月号)に掲載依頼(9/12)

戸沢村内の小学校へ募集(9/12以降)

自然再生実施協議会委員へ募集案内を送付(10/6)

(4) 参加者

参加者	人数	内 訳
戸沢村民	11名	委員(1)、山ノ内地区(3) 神田小学校 小4年(3) その他(児童親含む4)
新庄市民	3名	委員(1)、神室山系の自然を守る会(2)
事務局	戸沢村	2名 前田(商工観光交流主査) 他
	最上支署	1名 管理官
	ふれセン	3名 所長、庄司(友)、庄司(卓)
計	20名	

(5) 事業内容

稚樹の山取は、自然推移ゾーン内の林縁部に近く、発生密度が濃い場所から行うこととした。

参加者は自家用車等で現地へ集合した。

採取場所へと移動し、事務局から採取方法等の説明を行い作業へ移った。

協議会委員が指導役となり、9時30分~11時頃まで稚樹(400本)を採取し、ポットへの移植するとともに仮植床への運搬も実施した(写真19~21)。

予定数量を確保した後、小学生を中心に古代の火おこし(弓ぎり・舞ぎり)体験を行った(写真22~23)。

火おこしは、風がある野外という悪条件であったため、なかなか火が着かなかったものの、どうにか1組が成功した。

体験を通じて、自然とともに暮らしていた古代人の苦労を垣間見ることができた。

最後は炭火で作った焼きいもと角川のお母さん手作り「森の恵みを使った角川弁(秋)をみんなで味わった(写真24)。



写真19 稚樹の山取



写真20 稚樹のポット植



写真21 集合写真



写真22 火おこし(舞ざり)



写真23 火が着かない!?



写真24 炭火で焼きイモづくり

5 冬季現地確認

(1) 11月19日、山形県フォレスター会議（県と国有林が実施する行事等の連絡調整、技術交流を目的）において、参加者（山形県森林研究研修センター及び東北森林管理局・署職員）と現地視察を実施した。

当日は、スキー場跡地における自然再生事業の目的や取組を紹介し、初雪の降った植え付け箇所等を視察した（写真25～27）。



写真25 事業説明



写真26 植え付け箇所



写真27 仮植箇所

(2) 3月25日、現地の状況及び動物の足跡などを把握するため、現地確認した。

例年より積雪が少ないと思われ、スキー下部では地肌も一部見られた。カモシカ、ウサギ、キツネ、テンなどの動物の足跡が確認された（写真28～31）。

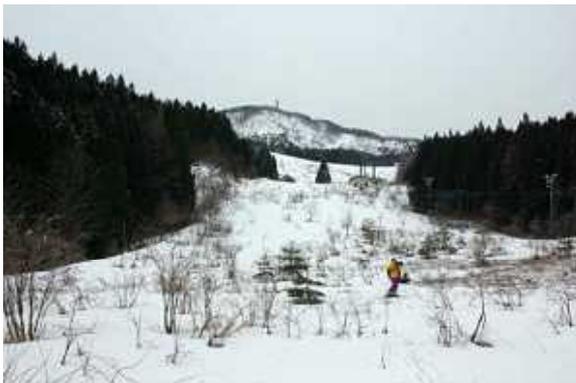


写真28 スキー場跡地下部



写真29 スキー場跡地上部



写真30 カモシカ足跡



写真31 仮植箇所

平成 21 年度「土湯の森」づくり事業計画

自然再生実施計画における「年次計画（表 2）」及び前年度の事業実行結果等を踏まえ、以下により実施する。

1 ブナ等稚樹の植え付け

	前年度実施結果・問題点等	本年度計画案
面積	・森林再生ゾーン内0.19ha。	・H20実施箇所の隣接地0.2ha程度。
時期	・6月14日（土）実施。 ・モニタリング調査時では大きな枯死は見られない。	・6月中旬までに実施し、乾燥による枯死の危険を防ぐ。 ・秋植えの希望がある場合は、追加で検討。
植栽間隔	・2.5m × 2.5m（正方形植）	・2.5m × 2.5m（正方形植）
植栽本数	・289本 / 0.19ha（1,521本 / ha）	・300本 / 0.2ha（1,500本 / ha）
防草シート	・127本（44%）で敷設。 ・調査時では本来の目的である防草効果は見られる。 ・期待した乾燥防止効果について優位性は見られない。	・150本（50%）に敷設。 ・防草シートは、前年度活用と同じものを使用。
事前準備	・機械による植穴の耕耘、客土の混合の事前準備により子供による植栽も順調に行われた。 ・調査時では機械使用による活着等の効果で優位性は見られない。	・植栽時における労力及び植栽木の根の発達を考え、事前に機械により植栽箇所の植穴の耕耘、客土の混合を実施。
その他	・何らかの被害を受けた植栽木は96%（うち、ウサギの食害57%）と多い。 ・調査時の枯死は7%と少ない。	・植栽は窪地など水の溜まりやすい箇所を極力避ける。 ・食害対策はとらずに実施。 ・植栽木の状況を見て枯死に繋がる等重大な影響があると判断される場合は対策を検討する。 ネット〔植栽木or植栽地〕 忌避剤 ワナ 客土見直し

2 ススキ等の刈り払い

	前年度実施結果・問題点等	本年度計画案
面積	・森林再生ゾーン内0.45ha(H19年度実施箇所)	・森林再生ゾーン内0.5ha程度。 ・天然下種更新や保育作業として有効な箇所を選定。
時期	・8月1日(金)実施。 ・調査時では刈り払いによる大きな効果は見られない。	・6月下旬～8月上旬頃実施。 ・複数の希望がある場合は、時期、面積、場所を含め検討。
その他	・アジア学院の農村指導者研修の一環として留学生も参加。 ・留学生から評価を得た一方、不慣れた作業のため、誤伐も見られた。	・戸沢村行事との合同実施も検討。 ・実施に当たっては、残存木の表示や作業前の説明を徹底。

3 モニタリング調査

	前年度実施結果・問題点等	本年度計画案
面積	・森林再生ゾーン内 植付区(全木) 刈払区(10m ² /1箇所) 対照区(10m ² /1箇所) ・自然維持ゾーン内(10m ² /1箇所×2)	・森林再生ゾーン内 ～(前年度実施箇所) H21植付区(全木) H21刈払区(10m ² /1箇所 新規) ・自然維持ゾーン内(前年度実施箇所)
時期	・10月5日(土)実施。	・9月～10月頃実施。
その他	・山形大学生と協議会委員協力により実施。 ・動物の調査は未実施。	・調査の継続という面から、同じ学校による実施が望ましい。 ・募集案内をした小学校の反応等を見て実施を検討。 ・ふれセンにおいて、センサーカメラ及び目視による動物の種類等を把握。

4 浸食防止

現在、スキー場跡地上部にある無線中継施設の維持管理のため、森林再生ゾーン内の作業道補修の検討が進められていることから、この計画内容を踏まえて実施を考える。

また、土湯林道分岐からスキー場跡地(中腹)までの作業道は、自然再生事業に不可欠な道路であるが、雨水等による浸食が一部において発生していることから、横断排水溝等設置による浸食防止対策を実施する。

なお、実施に当たっては、広葉樹の侵入を促すための間伐とあわせ、この間伐材の活用も検討する。

みどり環境交付金事業について

1 みどり環境交付金事業の審査結果について

昨年に引き続き実施する植え付けや刈り払い、植生のモニタリング調査など森林再生活動について、「みどり環境交付金事業」として山形県において審査され、計画のとおり承認された。

2 事業内容について（事業計画概要書の一部抜粋）

区 分	・基本配分枠 ○ ○
事業項目	1 森林・自然環境学習 2 自然環境の保全活動 ○ 4 森林資源の利活用
事業名	土湯の森づくり推進事業
事業の目的	（事業の目的を簡潔に記載） 最上川スキー場跡地において、広葉樹の植栽や植生のモニタリング調査等を実施しながら、森林へ再生していく中で、自然観察や森林環境学習等を実施し、森林の持つ重要性を学ぶ（H20年度より継続）。
事業内容	（実施場所、対象者、対象人数、事業量、実施方法等を具体的に記載） 平成20年度の参加者（地域住民や学校を含めた子供たち）に加え、さらに対象を広げて広葉樹の植栽（約300本程度）や刈り払い、植生のモニタリング調査等を実施する。森林の再生に向けた取組と併せ、森林・自然環境に関する学習会を開催する。
事業効果	（期待される効果等を具体的に記載） 荒廃したスキー場跡地を森林に再生することで周辺を含めた森林環境の保全と、野生動植物の生息及び生育地の確保など、森林保全の大切さへの意識を高める。また、世代間や地域間の交流を図る。
事業実施期間	平成21年 4月 1日 ~ 平成22年 3月31日まで
事業費（千円）	1,348千円

参加募集について

参加者の募集方法は次のとおり。

前年度実施結果・問題点等	本年度計画案
<ul style="list-style-type: none"> ・学校への対応 前年度中に案内すべき（前協議会指摘事項）。 戸沢村内小学校へ募集案内。 ・その他 委員への案内。 戸沢村ホームページ掲載。 戸沢村広報誌募集掲載。 等で募集。参加者は委員やその関係者が中心。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校への対応 H21年1～2月近隣の市町村（1市8町村）教育委員会に小・中学校への案内を依頼済み（リーフレット）。事業前に個別の学校等へ案内。 ・その他 委員への案内。 戸沢村ホームページ掲載。 戸沢村広報誌募集掲載 ふれセンホームページへ掲載。 新聞記事掲載。 他施設のパンフレット置場等を活用した募集を実施。

リーフレット

鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会
「土湯の森」づくり
 ～ 最上川スキー場跡地の森林再生と自然あそび ～



自然の中で森づくりや動植物の観察のほか、ネイチャーゲームなどをして楽しめます。

森の案内人（事務局スタッフほか）が、みなさんをご案内します。



日程	プログラム	対象	参加費
6月上旬	ブナ等稚樹の植付と自然観察（タネ模型作成）	小学生以上一般	無 料
7月下旬	刈払いと川（沢）あそび	小学生以上一般	無 料
9月下旬	モニタリング（植生調査）	小学生以上一般	無 料
10月下旬	間伐と火おこし体験（焼きもち作り）	小学生以上一般	無 料

プログラムは、基本となる内容を記載したものです。
 実施時期や内容（森林環境教育）については、ご要望をふまえて企画させていただきます。
 ご希望やご質問など事務局までお気軽にお問い合わせください。



事務局

戸沢村産業振興課
 〒999-6404 戸沢村大字古口270
 TEL: 0233-72-2111
 FAX: 0233-72-2116

または
 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター
 〒997-0404 鶴岡市下名川字落合3
 TEL: 0235-58-1730
 FAX: 0235-58-1731
 （詳細内容のお問い合わせはこちらへ）

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターの活動をホームページでご案内しています。
<http://www.fureai-kokuyurin.jp/>

◎交通のご案内
 JR新庄駅から車で55分（うち林道10分）

広報活動（ホームページ等）について
 広報活動は次のとおり。

前年度実施結果・問題点等	本年度計画案
<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページへの対応 ホームページで事業の案内や結果を掲載。参加者から意見をもらう掲示板のような形ができないか（前協議会指摘事項）。 ・ その他 各種イベントでのパネル、資料展示。最上総合支庁、戸沢村、ふれセン広報誌への記事掲載。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページへの対応 土湯の森づくりのトップページを作り、事業の案内や結果を随時掲載。メール形式で意見の聴取を実施。 ・ その他 各種イベントでのパネル、資料展示。最上総合支庁、戸沢村、ふれセン広報誌への記事掲載



- ホーム
- 活動報告
- モニタリング調査結果
- お問い合わせ／参加申込

森づくりの基本方針

最上川スキー場跡地をブナやミズナラなど広葉樹を中心とした天然林に復元し「緑の回廊」の機能を回復する活動を行っています。
 この活動では、自然の回復力を活用することを原則としながら、豊かな森林に展していく手助けを市民参加によって行っています。
 また、森林に直接触れ合う再生活動を通じて、自然の働きや人の生活との関わりなどを学ぶきっかけづくりとなることを期待しています。
 森を育て、森に親しみ、森に学ぶ。楽しみながら進める森づくりに皆様の参加をお待ちしています。



自然の中で森づくりや動植物の観察のほか、ネイチャーゲームなどをして楽しみます。



森の案内人(事務局スタッフほか)が、みなさんをご案内します。



現地マップ



Topics

土湯の森自然再生基本構想

・自然再生で取り組む基本方針

土湯の森自然再生実施計画

・自然再生事業で取り組む内容(H19～H23)

鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊(土湯の森)自然再生実施協議会

事務局
 戸沢村産業振興課
 〒999-6404 戸沢村大字古口270
 TEL:0233-72-2111
 FAX:0233-72-2116

または
 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター
 〒997-0404 鶴岡市下名川字落合3
 TEL:0235-58-1730
 FAX:0235-58-1731
 (詳細内容のお問い合わせはこちらへ)

Nature Restoration
 in Tutiyu-no-mori



ご意見・お問い合わせ・参加
 申込などご連絡ください。

▲朝日庄内森林環境保全ふれあいセンタートップへ

鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会設置要綱一部改正案（新旧対照表）

改正後	現 行
<p>（その他） 第8条 〔略〕 2 〔略〕 3 協議会の委員は、東北森林管理局長が委嘱する。 委員の任期は、本要綱を施行する日から平成21年3月31日までとする。なお、委員の再任は妨げないものとし、<u>この場合の任期を2年とする。</u></p>	<p>（その他） 第8条 〔略〕 2 〔略〕 3 協議会の委員は、東北森林管理局長が委嘱する。 委員の任期は、本要綱を施行する日から平成21年3月31日までとする。なお、委員の再任は妨げない。</p>